

クロスカントリー会場跡地とその周辺の猛禽類

～オオタカやノスリのその後は？～

堀田 昌伸

「自然との共存」を謳った第18回オリンピック冬季競技大会が開催されてから、2008年で10年になりました。会場等施設の整備や建設にあたって、自然保護に関わるさまざまな問題が発生しました。最も象徴的な出来事の一つは、オオタカやノスリが確認されたことによる会場変更や競技コースの縮小ではないでしょうか。バイアスロン会場は白馬村飯森東山地区から野沢温泉村に変更になり、白馬村内山のクロスカントリー会場（図1）では競技コースが一部縮小されました。また、オオタカの営巣期間中は夜間の工事を中断するなど、さまざまな環境配慮がなされました。

では、オリンピック開催から10年たった今、その当時、その一挙手一投足が注目された、オオタカ（図2-1）やノスリ（図2-2）は今も、会場あるいはその周辺に生息しているのでしょうか。

今回、オリンピック後の猛禽類の生息状況とその推移を明らかにするため、2008年4月から8月までクロスカントリー会場で猛禽類の確認調査をするとともに、クロスカントリー会場と旧バイアスロン会場候補地の両地域について、白馬村や当研究所が実施した猛禽類に関する調査資料を収集しました。

まず、オオタカについて見てみます（表1）。クロスカントリー会場では1996年まで、旧バイアスロン会場候補地では1997年まで、オオタカの繁殖が確認されました。しかし、オリンピック開催後モニタリング期間も含め、クロスカントリー会場では4年間、旧バイアスロン会場候補地では6年間、猛禽類の調査がおこなわれましたが、オオタカの繁殖は確認されませんでした。ただ、

オオタカの成鳥が時々確認されるため近くには生息していたと思われます。事実、2006年にはクロスカントリー会場から北東に3～4kmのところ繁殖が確認されました。

一方、ノスリについてはどうでしょうか（表1）。オリンピック開催前（1993年～1997年）5年間のうち、クロスカントリー会場では3年間、旧バイアスロン会場候補地では2年間、ノスリの繁殖が確認されています。それでは、オリンピック開催中と開催後（1998年以降）ではどうでしょうか。この期間、クロスカントリー会場では4年間調査がおこなわれており、2006年以外の3年間にノスリの繁殖が確認されています。また、旧バイアスロン会場候補地では6年間調査がおこなわれ、こちらも2006年以外の5年間でノスリの繁殖が確認されています。つまり、オオタカと違い、ノスリはオリンピック後も会場あるいは候補地で営巣していることがわかりました。

このように、オリンピック前後でオオタカとノスリでは生息状況に大きな違いがあることがわかりました。ではなぜこのような違いが生まれたのでしょうか。一般に、両種とも農耕地と林が隣接するような地域を好みます。そして、ノスリはより開けた環境を好むのに対し、オオタカは林の多い地域を好む傾向があるように思います。今回のオリンピック会場施設建設などともなう林地の改変は、両種の生息に少なからず影響を与え、現在のような生息状況になったと考えられます。ただし、今回の調査では影響を与えた原因を具体的に特定することはできませんでした。

表1 両地域におけるオオタカとノスリの繁殖確認状況（○印は営巣、あるいは営巣の可能性が高いことを示す）

調査年		'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99	'00	'01	'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08
		オリンピック開催前						オリンピック開催後									
オオタカ	S	○	○	○	○												
	B	○	○	○	○	○											
ノスリ	S	○			○	○	○	○									○
	B	○				○	○	○					○			○	○

S: クロスカントリー会場、B: 旧バイアスロン会場候補地
網掛けはデータがない年を示す。



図1 白馬村内山にあるクロスカントリー会場



図2-1



図2-2

図2 白馬村内山の山麓でよく見られる猛禽類
(図2-1) コサギを食べているオオタカ幼鳥, (図2-2) ノスリ